

## No.67 contents

- 1 春季二科展によせて
- 2 〈絵画〉総評
- 3 〈絵画〉春季展授賞選考過程・ギャラリートーク  
選抜出品者一覧
- 4 〈絵画〉作品寸評
- 7 〈彫刻〉総評・作品寸評
- 9 ローマ賞研修報告・伝説の洋画家たち 二科100年展
- 10 100周年記念事業 INFORMATION
- 12 二科東北支部連合展 立ち上げによせて
- 12 絵画部作品研究会のお知らせ
- 13 第37回定時会員総会
- 14 第100回記念二科展日程表・巡回展日程
- 15 二科会五十年の思い出・計報
- 15 公募団体セクション美術2015・計報
- 16 計報・短信・出品規約改訂・事務局だより・編集後記



春季

発行人：田中 良 発行：公益社団法人 二科会  
<http://www.nika.or.jp/> TEL：03-3354-6646



二科展・新旧の東京都美術館

## 100TH MEMORIAL NIKAI ART EXHIBITION

新緑薫る上野・東京都美術館で、春季二科展が開催された。天候不順が心配されたが、昨年に近い入場者で盛会でした。

選抜された出品者の作品は受賞作は勿論、他も粒揃いの感があり、又絵画、彫刻の会員作品も、意欲的、実験的試みもみられ、陳列の配慮と共に、好感をもって評論家や一般の方々に観賞されました。

今回は百周年記念展の幕開けともいえることで、各担当部会の進行も、鮮明になってきました。またあらゆる面で窓口になる事務局に深く感謝し、皆様の健康と、一層の御奮闘を祈念致します。

春季二科展によせて  
田中 良

春季二科展  
開催  
2015. 4. 17 ~ 4. 23  
東京都美術館



授賞選考経過 生方 純一

初日の展示終了後、出席の絵画部会員58名による投票で、春季二科賞1名、春季賞2名を選出した。投票後、田中理事長はじめ絵画部理事11名の立ち合いで開票され、春季二科賞に熊田菜穂子（千葉県）春季賞に渡邊仁美（神奈川県）と田辺幸子（新潟県）を選出した。

熊田菜穂子（30票）渡邊仁美（21票）で得票数も多く難なく決定したが、もう1名の春季賞が大島信人、松島美保子が同票となったので、得票の近い田辺幸子と展示場所の問題があった大築笙子を加え4名の作品を再度検分し、理事による決選投票としたが、結果は僅差で田辺幸子が選ばれた。

3作品とも大作選抜の作品で賞に相応しい作品が選ばれた。

春季二科賞 熊田 菜穂子  
春季賞 渡邊 仁美  
春季賞 田辺 幸子



授賞式にて



◆ギャラリートーク

初日4月17日受賞者発表後の午後2時半から、恒例のギャラリートークを行った。130号シード作家を中心に、作品の意図など自身の制作についてのトークを依頼した。担当委員のさらに踏み込んだ質問に回答いただくなど作者と作品、ギャラリーを繋ぐ双方の熱い思いを交差させる有意義な時間であるよう進行を心掛けた。更に100回展に向け、ギャラリートークのあり方、進行の工夫など、新たな方向性に検討を重ねています。

広報 深見まさ子

◆2015春季二科展 選拔出品

絵画部

(会友)

松嶋 美保子〔東京〕

石田 勝己〔滋賀〕

上村 伊佐子〔東京〕

大久保 リツ子〔福岡〕

伊藤 よし子〔愛知〕

遠藤 つるえ〔千葉〕

飯田 由美子〔北海道〕

稲生 有海子〔東京〕

坂井 健児〔鹿児島〕

富永 穆〔千葉〕

山下 宏琦〔千葉〕

木村 利加子〔千葉〕

酒井 とし子〔埼玉〕

嶋田 みどり〔東京〕

大築 笙子〔北海道〕

熊田 奈穂子〔千葉〕

倉掛 京子〔岐阜〕

太田 京子〔群馬〕

杉山 重雄〔静岡〕

長谷川 昭三〔兵庫〕

邑井 吉治〔石川〕

大島 信人〔愛知〕

佐藤 英行〔神奈川〕

磯貝 文利〔愛知〕

浦上 光喜〔熊本〕

田辺 幸子〔新潟〕

古谷 和子〔神奈川〕

さとう のりこ〔神奈川〕

加藤 光子〔大分〕

金折 文男〔広島〕

菅原 靖〔東京〕

中井 美甫〔三重〕

蜂須賀 和子〔愛知〕

堀谷 莉恵〔熊本〕

渡邊 仁美〔神奈川〕

(一般)

奥山 嘉男〔三重〕

辻田 悦子〔三重〕

矢島 和子〔神奈川〕

山田 雅子〔岐阜〕

稲葉 朗〔東京〕

古森 清五郎〔新潟〕

篠木 玲子〔埼玉〕

長谷川 聡〔神奈川〕

浜田 修子〔東京〕

彫刻部

(会友)

漆山 昌志〔新潟〕

吉田 朋世〔奈良〕

(一般)

稲葉 朗〔東京〕

古森 清五郎〔新潟〕

篠木 玲子〔埼玉〕

長谷川 聡〔神奈川〕

浜田 修子〔東京〕



総評 絵画部 2015 春季二科展

新緑の風薫る上野・東京都美術館に於いて、平成27年4月17日から23日まで、恒例の春季二科展が開催された。

大正時代から、9月1日二科会美術展覧会が「秋の美術展の幕開」と報道され、続いて来たが、秋の本展は六本木に建てられた国立新美術館に移って、春の展覧会は今まで通り上野で開く。

今年は絵画部と彫刻部合わせて、約320点が陳列された。第3・第4棟も使い、入口から同じ階で、観客の移動がスムーズになり、彫刻の部屋にも自然に歩を進め、ゆっくり見られ、様々な形の作品を前にして興味深く観賞していた。

絵画部は、会員と会友の大作シード作家、前年度選抜者の作品と一般出品8点が第1室から3室まで陳列され、点数と壁長がうまく陳列されて、見る人の様子もゆっくりと一点ずつ丁寧に見る事が出来た様だ。

松室 重親

大作と共に抽象画もあり、実験的仕事も見え、新人のエネルギーも盛んで、会場は活気のあるものになった。ベテランの会員は、すでに自己の世界を作り上げて安定感はあるが、本来の時代を見通した作品も欲しかった様に思う。

自由と活力を追求する二科会は、百周年を迎えて益々その幅を広げて、現代美術の発信の場としたい。

昨今、映像文化が世界中に広がり、美術のメソッドとして電子顕微鏡や、コンピューターによる映像を合成して人為的作品を作る傾向が増えて来た。此れを独創と見るか否かの論議がかまびすしく、新しい問題である。

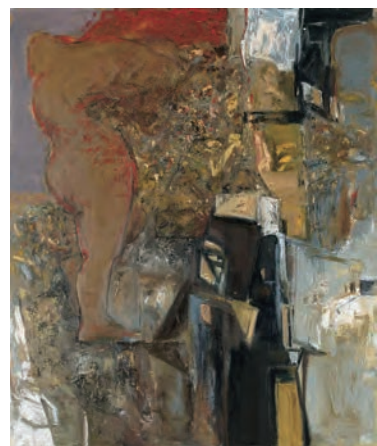
いづれにしても、百年を超えて進む二科会の将来が期待される。

此の成果を上げた担当の委員、事務局の努力を多としたい。

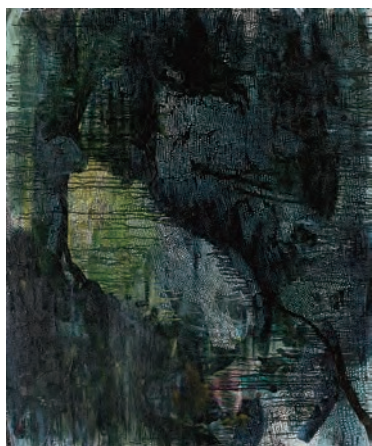




作品寸評



佐藤 英行「ロダンの後ろから」 F130



大島 信人「transparency」 F130



邑井 吉治「KANATA」 F130



田辺 幸子「卓上の譜」 F130



渡邊 仁美「Silence」 F130



熊田 奈穂子「転生」 F130

作品寸評

茶系の色調が素晴らしい  
「ハーマニー」を作り出してい  
ます。構成的な部分と、具象  
的な部分が上手くマッチし  
ています。ただ、マチエール  
の使い方を考えないと画面  
全体が汚くなります。的確  
な使い方を考えて下さい。  
(黒川彰夫)

白い小さな丸が、いい調  
子を醸し出し、暗い諧調の  
美しさを引き立たせていま  
す。しかし、暗い色調の変  
化が、画面から離れると単  
調に見えてしまい、その美  
しさが見えなくなります。  
暗い部分の表現に一考を求め  
ます。  
(黒川彰夫)

伝統的な日本の和のイメ  
ージを独自のモダンな切り  
口で表現している。抑制の  
効いた色彩も落ちついた調  
和がとれて美しい。今後、  
表層のパターンに留まるこ  
となく様式美の本質を研鑽  
され、感動力を備えた作者  
の表現スタイルに導いてほ  
しい。  
(加寛裕子)

中心になる色調に濁りを感じ  
ます。それが、背景の  
美しい諧調と違和感を感じ  
させ、全体の構成を壊して  
います。中心になるものの  
表現を考え、単調にならない  
様に研究して下さい。  
(黒川彰夫)

カラーージュを多彩に用い、  
そこに白、黒、ベージュ、赤  
茶などで着色された抽象表  
現の作品です。白いバックと  
暗い色調のバランスがよく計  
算されています。今後の課  
題として、画面が汚くなら  
ない様に。  
(黒川彰夫)

ゆったりと弧をえがいて  
流れるようなヌードがいる。  
見る側も良い気分になる。  
もう一人青黒いヌードが暗い  
入口の前に坐っている。悩み  
を抱えている様子。対照的  
な二人はどちらも自分自身。  
解放と束縛、陰と陽を見事  
に表現した逸品。素晴らし  
い！  
(五味祥子)



加藤光子「憩う」 F100



古谷 和子「紙風船」 F100



浦上 光喜「海の香り」 F130



嶋田 みどり「生命の記憶」 F130



遠藤 つるえ「冬のひまわり」 F130



松嶋 美保子「Mouvement. 15-1」 F130

本展での「旅情」シリーズ  
の造形的構図より柔らかに  
抒情的な方向性で、安らぎ  
を感じさせる作品。デフォー  
ムとは人物のフォルムを無  
理に誇張したり崩すことで  
はなく、内発的に出てくる  
形の表出である。遠景人物  
と主役人物の形の捉え方を  
一貫させることが課題であ  
る。  
(山中宣明)

色彩の美しさは素晴らし  
いものがあり、全体の構成  
もバランスよく表現されてい  
ます。ただ、右の人物の服  
が、余りにも平面的で他の  
部分との調和を壊していま  
す。また、左右の黒い塊が  
画面を窮屈にしています。  
(黒川彰夫)

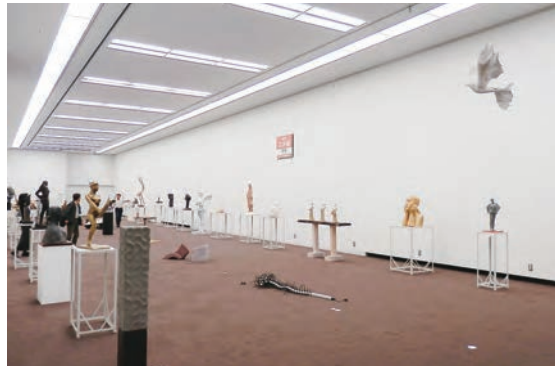
海辺の砂浜とぼかりとあ  
いた洞穴の向こうに見える  
海の独自のイメージが印象  
的な作品である。海辺描写  
にとどまらず、砂浜を壁的  
に立ち上がらせたことで、  
水平線のバースを強調した  
二重構造はシュール性も表  
出している。前景のマチエ  
ールが形を呪縛しないこと、  
構図をパターン化させず展  
開していくことを期待しま  
す。  
(山中宣明)

あまりまとめようとせず  
柔らかい色調と激しい形の  
絡みが面白い。黒い実がは  
じけた瞬間を絵にしたと思  
う。よく見ると内部から強  
い眼差しの横顔が天を仰ぐ。  
造形感覚の良い世界は見る  
側の想像力が湧く。あとは  
どこかに強いアクセントが欲  
しいだけ。  
(五味祥子)

立枯れた向日葵を見ると  
何故か心打たれます。誰で  
も手軽に絵にしやすい素材  
だけに、要は表現方法が重  
要。作者も充分承知のはず。  
更に擬人化されたモチーフ  
の造形を追求すれば説明  
的な風景、雪原など不要と  
なるでしょう。更なる躍進  
を！  
(五味祥子)

何層にも重ねられた画面  
は美しく画材と作者の身体  
が密接であるのを感じる。  
追求するムーブメントは時  
間の観念あるいは精神から  
の解放を詠うかの様である。  
繰り返しの調和作業に陥る  
ことなく独自の五感をフル  
に発揮し、さらなる展開に  
期待します。  
(加寛裕子)





新緑の香りに覆われた山野の山で2015年度春季二科展が、4月17日から23日まで、東京都美術館で開催されました。

初日に搬入、展示、午後2時よりオープン、夕方から、絵画部授賞式、懇親会と慌ただしい一日でした。

今年100回記念展を迎えるにあたって、4部門（絵画、彫刻、写真、デザイン）で、コラボ展示を行うための企画会議の後、懇親会に参加して頂きました。

## 100回記念展にむけて

島田紘一呂

料理不足になりましたが、大いに賑わいました。

例年通り、絵画部の色の世界を鑑賞し、進んで行く彫刻展示室にたどり着きます。今年は前年よりは作品点数が増え、会場に活気が感じられました。スペースと作品とがバランスがとれ、心地良い空間を作っていました。

彫刻部では、前年99回展受賞者の招待出品を行っています。新人達の作品を毎年楽しく鑑賞しています。

しかし、台座はどうにも会場に不似合で、難点となっています。本来は、作者が台座まで考えて一点の作品と捉え、自作するのが一番良いとは思いますが、サイズも種類が少なく、大きさ、高さがマッチしていない作品も見受けられました。次回までに改善出来るとは思えないので、何か工夫が必要でしょう。

展示には色々と制約があり、事務局には苦

労を掛けています。木彫の場合、材質が生き物と言う事も有り、虫が入っている可能性があるので、燻蒸処理が必要となります。又粉末的なものに対しては、飛散する恐れがあるので、蓋をしたり、アクリルで覆うなど、東京都美術館、国立新美術館の展示規則の範囲内での出品をお願いしております。

あつという間の一週間でした、流石に少し短すぎる感はありません。

二時半の閉会の手締めを行い、搬出となりました。

9月の本展では、いよいよ100回記念展です、春季展がそのまま助走となり、大いに盛り上がる各々の記念展に成る事と思います。



開場前・展示の打ち合わせ

## 作品寸評



堀谷 莉恵「22の生き方」 M100



中井 美甫「記憶の中で」 F130



金折 文男「皆既月食のとき・巖島」 F130

本展での横構図から縦構図にし、意欲的大作である。色面化、平面化を進め皆既月食の束の間の暗さの中の光への感動を深い紫で心象的に表現している。山の稜線と社のシャープな直線の対比が効果的である。月の表現を記号的にせず、塗りの密度を高め、ストロークの速度に緩急をつけ更に表現を深めて下さい。(山中宣明)

金折 文男

中井 美甫

大きな黄色い牛と赤土が印象的。祭りらしい。牛はもちろん人・魚・動物達が皆興奮している。壁画調の画面は原始的エネルギーで満ちている。強い生命力と迫力を感じます。更に絵具の研究をされれば、深みが増すでしょう。(五味祥子)

堀谷 莉恵

不思議な空間構成とは対照的に日常的な様々な猫の姿態が緻密に描写され目を惹かれた。題名の「22の生き方」におやっと思を止め画面を凝視すると、他にも多くの猫が隠れ潜んでいる。作者の堅実な描写力に裏打ちされた遊び心が今後の展開を楽しみにさせる。(加覧裕子)



蜂須賀 和子「sanctuary」 F120



菅原 靖「コミュニケーション」 F80

## 作品寸評



吉田 朋世 「勤左エ門」



漆山 昌志 「春」

本展同様群像を描いているが、見つめていると様々な人間模様、表情、物語が読み取れる楽しい画面である。群像の仕事は一人一人のデッサンはもちろんのこと、重なり合う群像が作る塊のフォルムと抜けの空間の形を大切にしてください。主役人物を作ること、遠景と前景のつながりをいれることが今後の展開の鍵です。(山中宣明)

菅原 靖

蜂須賀 和子

荒削りな中にも混沌とした空気感や目に見えぬ情感を捉え、表現に結び付けようとする姿勢が読みとれる。人体フォルムや空間構成を研究することで意図がより明確には成るが、安易な技巧に着地することなく精神性を深く掘り下げ作品の魅力さをさらに高めてほしい。(加覧裕子)

漆山 昌志(会友)

腰部の霞んだ山を思わせる造形に作者の挑戦が感じられる。その姿勢を評価しつつ、今一度、制作の推敲を期待したい。石彫の技術だけでなく、デッサンや粘土の仕事が自身の作品を深化させてくれることもあると思う。(宮澤光造)

吉田 朋世(会友)

街いのない頭像ですが、内面から出る強い精神性を感じます。

小品でも展示場の空気を圧する存在感があり、塑像の具象彫刻の魅力が改めて思い起こさせる力作です。

大作の発表が楽しみです。(豊田晴彦)





予期せぬローマ賞を受けた時、思わず石像文化に触れたいという気持ちが高ぶってきました。現在、那覇市若狭に高さ15m、直径3mの石像の龍柱の建立が進行中であるが、その原形作りをしている時期であったためであります。また、一方では、この機会に現在作家として活動をしているアトリエ訪問というかたちでイタリア留学した知人を

## ローマ賞 研修報告

### イタリアの文化芸術に触れて

紹介していただいたが、訪問の手続きは複雑であり時間がかかるということに断念しました。

前半はローマを中心に古代の遺跡や彫刻を研修しました。コロッセオと周辺にある松の木との兼ね合いには独特の空間を感じました。日本で見る松とは趣が違ったので気候風土の関係からとみて、行く先々の建物や樹木にも関心を持ちました。コロッセオに見られる石積みやレンガの組み合わせによって築かれていく事に目を引かれました。その他の石造建造物にもレンガが多く使われているのせいか、周辺の山々には樹木が少ないという印象も受けました。

抜く少年」は有名であるが、一点のみの彫刻だと考えていたが大小数多くあり、その特別展を見る機会が得られたことも予期せぬ収穫でした。また、ピカトリニ・ビーナス像やピカトリニの雌狼、学生時代に木炭デッサンをした石膏像、「カラカラ皇帝像」「アリアス」「ミケランジェロ像」等、多くの胸像が棚に並べられ、この美術館に原形がある事にも感動しました。



ファイレンツェ、ヴェネツィア等、主な遺跡や美術館を見学しながら石造建造物、とくに石柱群や美術史



に名高いものを取材し、石彫によるリアリズムの素晴らしさに改めて感動しました。帰国してから撮影した画像を見ながら整理しています。

美術館では現代美術展も開催されていていましたが、日本で見られる傾向が随所にあり、コンセプトにも類似性があると感じました。古代からの美術、イタリアルネサンスという輝かしい足跡と現代の美術の流れという展開の仕方にも興味がありました。この研修で修得したものが多くあり機会を頂いた事に感謝しています。

## 伝説の洋画家たち 二科100年展 —時代の先にはいつも二科があった—

【東京展】東京都美術館 2015年7月18日(土)～9月6日(日)  
【大阪展】大阪市立美術館 9月12日(土)～11月1日(日)  
【福岡展】石橋美術館 11月7日(土)～12月27日(日)  
公式ホームページ <http://www.nika100th.com>

### 《関連イベント》

●講演会  
7月18日(土)14:00～15:30  
田中 良 理事長／吉野 毅 常務理事  
東京都美術館 講堂 定員225名  
二科会の歩みや作家の足取りについて

●イブニングレクチャー  
7月24日 生方 純一 常務理事  
「100回展、そして…」  
7月31日 川内 悟 常務理事  
「二科草創期の個性派たち」  
8月7日 松室 重親 常務理事  
「戦後からの二科会」

●「この洋画家が凄い!わたしがオススメするこの1点」 二科会会員によるオススメの作品が上記HPに随時更新されます。

すべて二科展出品作にこだわり、100年間続く二科の気風を再現したというこの展覧会を観ることで、そのまま日本近代洋画史をみわたせる。全国70を超える美術館・所有者から100人を超える画家と彫刻家の作品が結集した、再度実現困難と思われる都美術館の「伝説の洋画家たち」の開催から、いよいよ第100回記念二科展がスタートを切る。

●第100回記念二科展に於ける記念講演会  
9月6日(日)午後1時～2時 国立新美術館 3階 講堂  
講師として石橋美術館 伊藤絵里子学芸員をお迎えして、第100回二科展と同時開催される「伝説の洋画家たち 二科100年展」(於東京都美術館)を紹介しながら、二科展の歴史を振り返ります。



古森 清五郎 「向こう側」



稲葉 朗 「BANK TURN」



浜田 修子 「NEGAU」



長谷川 聡 「シタル」



篠木 玲子 「颯爽」

チエーンソーの達人と聞きました。素材が見せる様々な瞬間を見事に捉えて、丁寧に制作されています。正面への意識が強いせいか、もっと自由になれるのではと思われました。

(安田正子)

古森 清五郎(一般)

人体像が等身大で表現され展示空間を凌駕して好感が持てる。像には造形上の実験も試みられているが、頭上、手、地山、背面ではあまりにもおしゃべりが多い。ミクストメディアは素材だけで良いと思う。

(市川明廣)

浜田 修子(一般)

雪山のワンショットを切り取って、展示会場へと運んできたのかと思えるような作品であるが、良く作られてはいるものの、作者の制作の意図がこれなのか、何かちぐはぐな感じがしてならない。素材である木材の扱いに起因するのではないかと、残念な印象が強く残る作品である。(小田信夫)

稲葉 朗(一般)

## 作品寸評

題名の「颯爽」に相応しく凛と立つ姿が印象的な作品です。小品ゆえの肉付けのぎこちなさを少し感じますが、ポーズのとりかた、頭髮の処理に作者の意図することが伝わります。

(豊田晴彦)

篠木 玲子(一般)

長谷川 聡(一般)

役目を終えた学校机。天板にぽっかり穴が空き、簡素なスチール脚の中に、メルトダウンしている。今にもボトリと落ちる様の、伸びきった滴と波紋。豊かな物語を、或いは、厳しい問いを持つ作品である。

(鷲崎直子)



## 現在の審査風景



絵画部 第99回展



彫刻部 第97回展

## 特別展示企画2 ▶ 4部会員有志コラボ展示

## 休憩室が楽しくなる！ネコ100態

4部（絵画・彫刻・デザイン・写真）の会員有志が、共通のテーマで任意の作品を制作し、新たな会場を構成する企画展示室ができます！「あそび」という大きなテーマであるからには自由な発想で出品作品とはまた異なる柔軟な創作が考えられます。さて具体的にはサブテーマが「ネコ100態」となり、まずは猫派作家達がどのような作品を持って集まるのか、4部の会員有志コラボということで異なる部門の混成組の作品もあるという、100態100様のネコ作品が100回展を彩ります。

初めての4部門混成展示会場であり、今後もテーマを変えて継続の意向。参加者も来場者も、共に創作の楽しさを感じられるような空間にしたいと張り切っています。  
新企画に乞うご期待!!



ファンの多い彫刻部・島田紘一氏 猫作品

## 週末の二科展

## ◇ナイトミュージアム

9月4日(金)・11日(金) ～20:00

9月4日・11日の金曜日は夜20:00まで開館。  
仕事帰りに、ゆっくりと静かに鑑賞できます。  
野外展示場では、ライトアップされた彫刻作品が  
六本木の夜景を背に美しく浮かびます。

## ◇ミニコンサート

9月11日(金) 18:00～

ヴァン・ドゥ・ラ・ムジーク Venx' de la' musique  
(音楽の風) クラリネットオリジナル曲をはじめ、  
ジャズや映画音楽、ピアノ小品、室内楽曲、オーケ  
ストラ曲など幅広いレパートリーから 第100回記念  
二科展にふさわしい楽曲をセレクトし演奏。  
金曜日の夜のミニコンサートをお楽しみください。

## ◇二科ショップでは

NIKA100デザインTシャツ等、記念展二科グッズの販  
売をいたします。新しい絵葉書スタンドが入りレイア  
ウトも工夫、ショップが賑やかになりそうです。

恒例のチャリティーコーナーでは4部門会員の多数の  
作品が集まります。

引き続きご協力をお願いいたします。

## ◇ギャラリートーク

絵画部のギャラリートークは、会期中週末の土曜・日曜の  
午後に4回行われます。  
作品作りを参考にしたい方、これから二科展に出品したい  
方、是非ご参加ください。

9月5日(土)13:00～ 山中宣明理事・鎌田道夫会員

・自由な発想から、抽象的表現について

9月6日(日)11:00～ 松室重親常務理事・井田健一会員

・絵画の基本、具象的表現について

9月12日(土)13:00～ 中原史雄理事・加覧裕子会員

・絵画の大きな要素、色彩について

9月13日(日)13:00～ 香川猛理事・吉田清光会員

・画面構成による、スケール感の表現

## ◇二科100周年 publicity

※新聞・雑誌

・新美術新聞二科展特集記事 7月21日発売号  
・産経新聞紙面にて紹介(見開き) 7月14日(火)  
・朝日新聞(広告) 7月18日(土)朝刊・7月22日(水)夕刊  
・美術の窓に特集が掲載予定

※テレビ

・BSフジにて特番 8月2日(日) 15時～16時  
・東京MX 8月9日(日) 11時～11時30分  
・BSフジ 8月16日(日) 9時30分～9時55分

※ラジオ

・J-WAVE 7月21日(火) 12時15分～25分頃

100TH MEMORIAL  
NIKA ART EXHIBITION 2015

## INFORMATION

## 二科100年史

・DVD2枚組と冊子 ・続 二科史30年1965-2014

歴代会員、在籍会友、支部紹介、二科行事など、二科展全容と、  
二科70年史(1985年刊行)をDVDに採録。加えて、美術評論家・瀧  
梯三氏の執筆による「続 二科史30年」の本と、あわせて二科100年  
の流れが作品画像と共に一覧できる資料として刊行されます。

・限定1000部発刊 会員・会友に記念品として1セット贈呈

・追加購入は、セット価格1万円 申し込みは二科会事務局まで

## 特別展示室

会場：第100回記念二科展 1階展示室4・5室

98回展・岡本太郎、99回展・東郷青児と、二科の大きな輝きと現在を繋ぐ  
プレ100回展の特別展示室を設けてきましたが、いよいよ100回記念展の企  
画は、戦後の二科を牽引した物故作家の作品、絵画15点、彫刻7点を展示  
します。かつての上野の、ことに旧都美術館の二科展覧会の濃密な空気をも  
った作品が再び六本木に集められます。回顧的なばかりではなく、デザ  
イン部・写真部の協力を得て、伝統(絵画・彫刻)現在(デザイン)そして未  
来(写真)へと展望するコンセプトで4部門協調の展示室を構成します。

## 展示作家一覧(五十音順)

(絵画) 大沢昌助 織田廣喜 桂ユキ子 北川民次 鈴木 崧 鷹山宇一  
鶴岡義雄 寺田竹雄 東郷青児 野村守夫 服部正一郎 藤井二郎  
松井 正 吉井淳二 吉原治良

(彫刻) 大平隆洋 笠置季男 倉澤 實 小島廣志 堀内正和 淀井敏夫 若林 奮

## 第100回記念二科展祝賀会 於：グランドハイアット東京

9月2日(水) 18:00～

グランドハイアット東京に会場を移す第100回記念二科展祝賀会では、六本  
木ヒルズの近くの会場までの誘導、道案内を兼ねて、祝賀のパレード気分  
でその道程を楽しもうという企画がたてられました。支部・地区単位で集  
合、美術館をスタートし会場まで、品よく楽しく二科展をアピールしながら  
六本木を歩きましょう。(参加記念品の配布予定)

500㎡から1000㎡と2倍の広さになった会場では、初参加の出品者も臆す  
ことなく、会員・先輩達と交歓できるよう地域ごとのテーブルが用意され  
ます。今回、記念祝賀会ということでゲスト参加者も歓迎。家族・友人を誘  
い合わせ、一緒に会場を楽しんでいただけます。(ゲスト参加費・1万円)  
祝宴に花を添える特別ゲストとして、ナイトミュージアムでも好評のナタ  
ーシャ・グジーの民族楽器バンドーラと唄声に込められたメッセージや、ア  
トラクションとして和太鼓を現代の感覚に融合させ新しい価値観を表現す  
る和太鼓パフォーマー＜無限＞の演奏も会場を盛り上げてくれます。

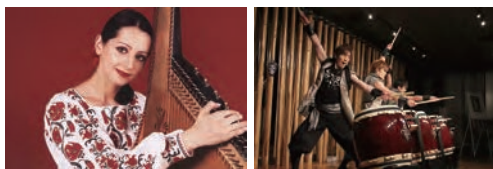
## 第58回二科展 審査風景



絵画部



彫塑部

銀座～上野 先導のオープンカー、メキシコ仮装連の  
懐かしいパレード写真左)ナターシャ・グジー 撮影：広河隆一  
右)和太鼓パフォーマー＜無限＞



平成27年5月31日午後1時より、二科会第37回定時会員総会が六本木の国立新美術館に於いて開催された。会員総数221名、出席会員177名(うち委任状出席90名)を以て今総会の成立が塙事務局長より宣せられた。

出席理事18名、欠席2名  
田中 良 伊庭新太郎  
松室重親 生方純一  
吉井英二 川内 悟  
菅原二郎 吉野 毅  
黒川彰夫 山中宣明  
中島敏明 香川 猛  
中原史雄 宮村 長  
大隈武夫 登坂秀雄  
小田信夫 島田紘一呂  
出席監事2名、欠席1名  
木戸征郎 尾崎 功  
議長に吉野理事を、議事録署名人に田中理事長、生方理事を選任し、以下の議案について審議を行った。

**第1号議案**  
平成26年度事業報告  
議長より、議事資料に基づき、別紙資料を参考に、事業の実施状況について、実施項目ごとに詳細な説明があり、了承された。

**第2号議案**  
平成26年度決算承認の件  
(財務諸表ならびに監査結果報告)  
川内理事より、議事資料に基づき、別紙資料を参考に、平成26年度公益社団法人二科会の財務諸表(貸借対照表・正味財産増減計算書とその内訳書・財産目録)を基に説明があり、次いで、同決算に関する監査結果が、木戸監事より報告された。議長より、この議案について承認を求めたところ、満場一致で承認された。

**第3号議案**  
平成27年度事業計画報告  
議長より、別紙議事資料に基づき、平成27年度事業計画の説明、報告が行われ、満場一致で承認された。

**第4号議案**  
平成27年度正味財産増減予算書報告  
川内理事より、別紙議事資料に基づき、平成27年度収支予算案の詳細な説明、報告が行われ、満場一致で承認された。

**各担当理事からの報告**  
広報、展示、東北支援、渉外、100周年担当理事及び事務局から報告が行われた。

以上により、議長が本日の議事の終了を宣し、閉会となった。 午後3時閉会

**◆絵画部会**  
総会終了後の3時より、引き続き新美術館講堂に於いて、生方理事の司会進行により絵画部会が開かれた。「出品規約追記と審査方針について」の資料を基に、未発表作品の定義などが活発な質疑応答で確認がなされた。審査中に問題となる作品、規約違反と見なされる作品の多输出など、各支部は研究会、指導会の機会などに、出品規約を再度確認し注意、周知に努めた。山中理事により、賞候補作品は審査会後、検討委員会を設け資料確認などを経てから公正な入賞決定の手続きをとる等、審査会の説明があった。又中原理事から、ギャラリートークと作品研究会の目的、対象の違い。中島理事から第一回東北支部連合展の経緯と報告、その他、出品者減の北海道・四国対策が説明された。

田中理事長の「会員各位がひびを突き合わせ、皆で参加

できる総会、部会となつて、有意義な時間を持てた」との挨拶をもって、5時30分閉会した。(M)

**◆彫刻部会**  
5月31日(日) 彫刻部会が開催されました。会員56名中33名の出席、20名の委任状を得て会議は成立。はじめに議長の出選について事務局より提案があり、廣瀬・宮澤の両氏が1年間の任期で選ばれました。次に100回記念展の展示空間について、吉野理事より「100回展は彫刻部の会場が狭くなるが101回展から元に戻ります」との説明がありました。多くの会員が心配していた点でもあり、会場に安堵の空気が広がりました。続いて昨年実施したアンケートについて市川評議員より報告。一般出品者の増加に向けた取り組みや情報交換の場としての茶話会の活用などが話し合われました。また、展示委員会からは菅原委員長より100回展の基本コンセプト、並びに昨年の搬出時における作品転倒事故について説明がありました。その上で今年度展示委員の大きな役割変更点は「搬出終了まで立ち会う事を原則とする」というものです。みなさんの力を合わせて素晴らしい「今年の二科展」にしたいと思います。(M)

| 第100回記念二科展 日程表    |  |  |  | 第100回記念二科展 巡回展日程 |  |  |  |
|-------------------|--|--|--|------------------|--|--|--|
| 8月                |  |  |  | ◆新潟展             |  |  |  |
| 20日(木)搬入(業者・個人)   |  |  |  | 新潟県民会館           |  |  |  |
| 21日(金)搬入(個人)16時まで |  |  |  | 平成27年9月20日(日)    |  |  |  |
| 22日(土)～25日(火)審査   |  |  |  | ～9月29日(火)        |  |  |  |
| 26日(水)入落通知発送      |  |  |  | ◆東海展             |  |  |  |
| 28日(金)～29日(土)     |  |  |  | 愛知県美術館ギャラリー      |  |  |  |
| 30日(日)選外作品搬出彫刻    |  |  |  | 平成27年10月6日(火)    |  |  |  |
| 31日(月)～9月1日(火)    |  |  |  | ～10月12日(月)       |  |  |  |
| 9月                |  |  |  | ◆大阪展             |  |  |  |
| 1日(火)展示日          |  |  |  | 大阪市立美術館          |  |  |  |
| 2日(水)展覧会初日        |  |  |  | 平成27年10月27日(火)   |  |  |  |
| テープカット10時         |  |  |  | ～11月8日(日)        |  |  |  |
| 作品研究会             |  |  |  | ◆京都展             |  |  |  |
| [絵画]12時～14時       |  |  |  | 京都市美術館           |  |  |  |
| 授賞式14時            |  |  |  | 平成27年11月24日(火)   |  |  |  |
| パレード16時30分        |  |  |  | ～12月6日(日)        |  |  |  |
| 祝賀会18時            |  |  |  | ◆広島展             |  |  |  |
| 4日(金)ミニコンサート18時   |  |  |  | 広島県立美術館          |  |  |  |
| 5日(土)ギャラリートーク     |  |  |  | 県民ギャラリー          |  |  |  |
| 6日(日)ギャラリートーク     |  |  |  | 平成28年1月5日(火)     |  |  |  |
| [絵画]11時           |  |  |  | ～1月10日(日)        |  |  |  |
| [彫刻]15時           |  |  |  | ◆鹿児島展            |  |  |  |
| 講演会13時            |  |  |  | 鹿児島県歴史資料センター     |  |  |  |
| 8日(火)休館日          |  |  |  | 平成28年3月11日(金)    |  |  |  |
| 12日(土)ギャラリートーク    |  |  |  | ～3月20日(日)        |  |  |  |
| 13日(日)ギャラリートーク    |  |  |  | ◆熊本展             |  |  |  |
| [絵画]13時           |  |  |  | 熊本県立美術館          |  |  |  |
| 14日(月)展覧会最終日      |  |  |  | 平成28年4月5日(火)     |  |  |  |
| 14時まで             |  |  |  | ～4月17日(日)        |  |  |  |
| 搬出[彫刻]            |  |  |  | ◆福岡展             |  |  |  |
| 搬出[絵画・彫刻]         |  |  |  | 福岡市美術館           |  |  |  |
| 16日(水)搬出[絵画]      |  |  |  | 平成28年4月19日(火)    |  |  |  |
|                   |  |  |  | ～4月24日(日)        |  |  |  |

風薫る五月、社の都仙台で第一回二科東北支部連合展が開催された。

東京から新幹線に乗り北へ二時間、目的地の仙台駅に着く。打ち合わせで幾度となく足を運んでいたが、今の時季は街路樹の櫨の若葉が薫り爽やかだった。

連合展の経緯については、機関誌「二科」№66秋季号に掲載のため省略。

七日、一足早く陳列応援に駆け付け、会場に入ると、この日お待ち望んでいたかのような東北の方々の熱気につつまれた。

翌日は第一回展の立ち上げということもあり、オーピングセレモニーには地元の人をはじめジャーナリスト・後援者の列席をいただき、二科会百周年の歴史と伝統を称える祝辞

が聴かれた。二科会本部からは田中理事長が列席され「東北の支援は、予てからの思いであり、今回の連合展は喜ばしいことです。これからも一緒に頑張りましょう」と挨拶された。

正午には、本部より賛助出品の担当理事が駆け付け昼食もそこに熱の入った講評や作品解説などを解りやすく指導された。

今回指導を受けた出品者のなかには、東日本大震災から生活が停滞、又、地震・津波・放射能不安により創作意欲が減退し、休止することを余儀なくされてきた人も多かった。そのような人の中には、この企画によつて創作意欲を揺り動かされ、再起動のきっかけになったと喜ぶ人もいた。

そんな各支部の絵画と彫刻の出品者数は、青森支部5名・岩手支部8名、宮城支部8名、秋田支部7名、山形支部1名、福島支部11名の計40名と他支部の半数にも満たない数ではあるが、このような小さな支部が連帯となつて交流が進めば、一人で頑張つてこられた方も仲間ができてお互いに切磋琢磨する機会

が生まれ、資質の向上や出品者の増加に繋がることと確信している。

東北には個性豊かな原石とも言える創作者が沢山おられるような気がする。それを見出し、輝かせるこそが今、我々に課せられた役目であろう。101回展からの新芽となる、新生二科会の息吹を感じた。

地方への支援は今後、二科会として東北のみならず、北海道、その他の地方へと充実させていくことが大切だと思つた。

最後にこの企画にコンセンサスを得、手弁当で協力された賛助作品の担当理事の先生方に感謝申し上げます。



河北新報



が聴かれた。二科会本部からは田中理事長が列席され「東北の支援は、予てからの思いであり、今回の連合展は喜ばしいことです。これからも一緒に頑張りましょう」と挨拶された。

正午には、本部より賛助出品の担当理事が駆け付け昼食もそこに熱の入った講評や作品解説などを解りやすく指導された。

今回指導を受けた出品者のなかには、東日本大震災から生活が停滞、又、地震・津波・放射能不安により創作意欲が減退し、休止することを余儀なくされてきた人も多かった。そのような人の中には、この企画によつて創作意欲を揺り動かされ、再起動のきっかけになったと喜ぶ人もいた。

そんな各支部の絵画と彫刻の出品者数は、青森支部5名・岩手支部8名、宮城支部8名、秋田支部7名、山形支部1名、福島支部11名の計40名と他支部の半数にも満たない数ではあるが、このような小さな支部が連帯となつて交流が進めば、一人で頑張つてこられた方も仲間ができてお互いに切磋琢磨する機会



オープニングセレモニー



午後からの作品解説

**第100回記念二科展 絵画部作品研究会のお知らせ**  
2015年9月2日(水) 12時～14時(受付11時30分)  
昨年に引き続き、一般出品者・会友を対象とする作品研究会を行います。各人の展示作品を前に、具体的に作品の向上や、制作の刺激となるための研究会です。下記の46名会員が、担当の部屋で待機します。

| 3 F             |     |                 |     |                 |      |                 |      |                 |      |               |      |               |      |               |      | 2 F             |                |               |               |               | 1 F             |                |     |      |      |       |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |     |      |      |      |      |
|-----------------|-----|-----------------|-----|-----------------|------|-----------------|------|-----------------|------|---------------|------|---------------|------|---------------|------|-----------------|----------------|---------------|---------------|---------------|-----------------|----------------|-----|------|------|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-----|------|------|------|------|
| 20室<br>～<br>22室 |     | 17室<br>～<br>19室 |     | 14室<br>～<br>16室 |      | 12室<br>～<br>13室 |      | 10室<br>～<br>11室 |      | 7室<br>～<br>9室 |      | 4室<br>～<br>6室 |      | 1室<br>～<br>3室 |      | 11室<br>～<br>13室 | 9室<br>～<br>10室 | 7室<br>～<br>8室 | 4室<br>～<br>6室 | 1室<br>～<br>3室 | 14室<br>～<br>17室 | 6室<br>～<br>13室 |     |      |      |       |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |     |      |      |      |      |
| 番匠美晴            | 渡邊丞 | 堀尾一郎            | 山岸睦 | 前田芳和            | 東井邦夫 | 浦野光江            | 米田安希 | 武藤挺一            | 松田朝旭 | 益子佳苗          | 森岡謙二 | 齋藤賢司          | 鶴岡義幸 | 鶴前秀幸          | 鎌田道夫 | 入佐美南子           | 加寛裕子           | 祝迫正豊          | 今村幸子          | 粕谷正一          | 野村みそら           | 井上裕義           | 岩田博 | 二石綱夫 | 江崎榮彦 | 古保木雄一 | 高藤博行 | 田川絵理 | 有水基雄 | 藤橋秀安 | 清水幹男 | 上村育子 | 一乗清明 | 大松肇雄 | 瀧澤賢福 | 寺田眞功 | 尾崎一郎 | 馬場一郎 | 濱田進 | 井田健一 | 山岸光代 | 五味祥子 | 木戸征郎 |



公募団体  
ベストセレクション  
美術  
2015

東京都美術館

平成 27 年 5 月 4 日 (月・祝)  
～ 27 日 (水)

全国の美術公募団体 27 団  
体による都美術館企画の合  
同展覧会、4 回目となった  
ベストセレクション展が開  
催された。第 99 回二科展会  
期中の理事会により選出さ  
れた(総 横前秀幸、田浦哲  
也、齋藤賢司会員、山岡明  
日香会友、(彫) 小田信夫、  
安田明長会員、林一平会友  
の 7 名が出品し、ギャラリ  
ートークには、横前、小田  
会員が参加した。団体の枠  
を超えた企画展に、常にも  
増した意気込みで臨んだ齋  
藤賢司氏による報告。

ベストセレクション展に  
参加して  
齋藤賢司

ベストセレクション展  
の選抜を知らされて、ま  
ず、かしこまった場に、  
いいのかなと思いました。  
新作も OK ということ  
で、さっそく描きはじめ  
ました。しばらくして、  
搬入までのこまかな内容  
の書類がどっさり届きま  
した。  
新作を描きはじめて、  
まだ、はつきりとは行く先  
が決まっていないうちに、  
都美への「題名」提出があ  
りました。二科展には搬  
入まぎわまで描いて、作  
品ができてから「題名」を  
決めていたのですから、  
これは困ったなあと思い  
ました。都美へあまえる  
わけにもいかず、「題名」  
を決めました。あとはプ  
レッシャーとのたたかい  
でした。「題名」(絵柄)が  
変更できないので、かえ  
って内容について、より  
きびしく考えられまし  
た。まぐれか、みえない  
あとおしがあったか、運  
よくインパクトのある作  
品が搬入できました。安  
堵でした。

第99回展出品作 未来へ F100

| 会友 櫻井 詩乃氏 |                      |
|-----------|----------------------|
| 略歴        | 二〇一五年二月二十日逝去 享年 69 歳 |
| 一九九五年     | 第 80 回展特選            |
| 一九九七年     | 会友推挙                 |
| 二〇〇七年     | 第 92 回展会友賞           |

第99回展出品作 流れ

この強靱な制作態度は我々がいつも見習うところでした。先生は二科新潟彫刻部を家族づきあいのファミリーに育て上げてくれました。このことが出品者を多く生むことにもなりました。我々は先生の意思を受け継いで頑張ります。安らかにお休みください。

野上公平先生を偲んで 藤巻秀正

だれよりも二科を愛し、二科を誇りに思っていた野上公平先生が5月9日ご親族はじめ、二科新潟支部彫刻部の方々にみとられながら安らかに永逝につかれました。

3 年ほど前から体調を崩し通院はしていましたが、石彫の大作主義の意欲は衰えることはありませんでした。病床のベッドで二科 100 回展を立派に飾ろうとデッサンを見せ、早く病魔に打ち勝って制作を始めると最後まで制作を離すことはありませんでした。

| 会友 倉橋 寛氏 |                     |
|----------|---------------------|
| 略歴       | 二〇一五年二月十日逝去 享年 87 歳 |
| 一九一七年    | 東京都生まれ              |
| 一九五二年    | 二科展初出品              |
| 一九七〇年    | 第 55 回展特選           |
| 一九七一年    | 会友推挙                |
| 一九七五年    | 会員推挙                |
| 一九八四年    | 松岡美術館に作品収蔵          |
| 一九八七年    | 第 72 回展 会員努力賞       |

| 会友 野上 公平氏  |                     |
|------------|---------------------|
| 略歴         | 二〇一五年五月九日逝去 享年 80 歳 |
| ご遺族        | 野上嘉子(妻)             |
| 千九四九・六八〇   |                     |
| 新潟県南魚沼市六日町 |                     |
| 四三・〇一五     |                     |

|       |              |
|-------|--------------|
| 略歴    | 一九三四年 新潟県生まれ |
| 一九六九年 | 二科展初出品       |
| 一九八六年 | 第 71 回展特選    |
| 一九八八年 | 会友推挙         |
| 一九九五年 | 第 80 回展      |
| 一九九七年 | 会員推挙         |

2015. 7. 10 No.67

二

科

14

炎天下の来場者行列に二科日傘を渡す東郷会長

二科はまた単に新人を待つだけではなく広く門戸を開放しているのです。藤田嗣治先生のような大家にも参加を願ってきたが、殊に苦勞して海外で成功しながらケチな島国根性で日本に受け入れられない人には、今後なお一層門戸を広くしたいと思っています。

最後に二科の在り方についていえば、世界の中の二科という方向に進んでいる。

丁度半世紀前の第 50 回記念展図録によせた、東郷青児「二科 50 周年の思い出」を 2 回に分割し掲載した後編です。

発足の当時から戦前の二科に関わった作家たちの姿、更に二科 50 回の後の、新たな 50 年の抱負などが語られています。100 回展の現在、社会・美術状況は大きく変化しましたが、終始変わることなかった姿勢があると改めて気づきます。その二科会趣旨が、100 回展の 4 部の展示室に掲げられます。

第99回展出品作 六魂祭VI F130

一時期、二科の事務所に一緒にいた時には、あまり接点はありませんでしたが、仕事に対してまじめに努めていたように思います。彼は、なによりも絵が好きでアトリエで共に絵を描いたことを、よく思い出します。たびたび私の作品制作の相談のつてくれました。彼の助けなしには今の私はありません。ただ深く感謝しています。

二科会のもう一つの特徴は新人の抜擢と輩出である。二科ほど有力作家が巣立っていった会はないと思うが、そのことで忘れられない思い出がある。

長谷川利行が初出品した時のことだが全審査員の反対の中で正宗得三郎先生一人強力で推選した。当時の時代感覚では

利行の作品は幼稚なもので、他の審査員の反対も当然なのであるが、正宗先生は敢然として自己の信念を貫かれたのである。利行を推薦して正宗先生は迷惑を受けこそすれな

国際交流が盛んになってきた現在、各種国際的スケールの展覧会が開かれているが、実状を見るとそれぞれに特定の枠がある。画壇に対してアツピールするものが少ないので、自前で自由に外国の画壇と交流を深めていくつもりだ。

これからは二科国際美術展といった心構えで、新たな 50 年の歴史を築いていきたいと考えている。

(元)

広由とは、いろいろと共にしてきました。うまく言葉にできませんが彼との思い出を書こうと思います。

彼が生まれた当時、私達は蒲田にいました。四人兄弟の末っ子で、体があまり丈夫ではなく周囲は心配していました。十代に入っ

からは、健康になり結構遊びました。当時、彼を自転車の後ろに乗せて走りました。辺りを回るうちに、何度か風景をスケッチしました。今思うと、この頃の事は、絵の世界を志すきっかけになったのではないかと思います。割合と大きくなってからは運動が好きで、狭山のスキー場に行っていました。近年は日本各地の夏祭

私は若い頃は外食を好み、彼とともに食事を一緒にしました。その時には胃ガンという病名などは、まさか思ってもいませんでした。彼の好物はラーメンと折詰寿司でした。かつて二人でパリへ旅行をし、一月ほどホテルに逗留しました。カップラーメンや鍋でやりくりしていました。東郷青児先生と合流しレストランでご馳走になったことを思い出します。手持ちのお金がさみしくなったら、モリエール通りにある日本食レストランに行きました。安上がりで済み、喜んでご飯を何回もおかわりしていました。

## 二科会五十年の思い出

東郷青児

二科 50 周年回顧記念展図録より

(66 号から続く)

利行の作品は幼稚なもので、他の審査員の反対も当然なのであるが、正宗先生は敢然として自己の信念を貫かれたのである。利行を推薦して正宗先生は迷惑を受けこそすれな

国際交流が盛んになってきた現在、各種国際的スケールの展覧会が開かれているが、実状を見るとそれぞれに特定の枠がある。画壇に対してアツピールするものが少ないので、自前で自由に外国の画壇と交流を深めていくつもりだ。

これからは二科国際美術展といった心構えで、新たな 50 年の歴史を築いていきたいと考えている。

(元)

| 会友 安食 広由氏  |                        |
|------------|------------------------|
| 略歴         | 二〇一四年十二月三十一日逝去 享年 67 歳 |
| ご遺族        | 安食一雄(兄)                |
| 千三九一・二八    |                        |
| 埼玉県所沢市けやき台 |                        |
| 二一・三三五     |                        |

|             |                 |
|-------------|-----------------|
| 略歴          | 一九七三年 第 58 回展特選 |
| 一九七五年       | 会友推挙            |
| 一九七七年       | 第 62 回展         |
| 安田火災美術財団奨励賞 |                 |
| 二〇〇二年       | 第 87 回展 会友賞     |
| 二〇〇六年       | 会員推挙            |
| 二〇一二年       | 第 97 回展 会員賞     |

りに興味がわいていたようで、東北六魂祭や高円寺阿波踊り等に出掛けていました。



## 計 報

公益社団法人二科会  
元名誉理事・月館れい氏  
が、2015年6月30日  
にご逝去されました(享年  
94歳)。

1988年理事就任、  
2006年、永年の功績  
により名誉理事となられ、  
2014年に本会を退会  
されました。厳しい制作の  
姿勢で、後に続くものの  
精神的支柱であった先達  
を失うことは、誠に残念  
に思います。画家としての  
生涯を全うできる事の喜  
びと感謝を仰しやってお  
られた先生のご冥福を心よ  
りお祈り申し上げます。

## 計 報

一般社団法人二科会  
写真部 理事長・創立会員  
大竹省二氏が、2015  
年7月2日にご逝去されま  
した(享年95歳)。

1953年二科会写  
真部創立の会員であり、  
2003年に理事長に就任  
され、永年にわたり、会に  
貢献された氏のご冥福を心  
よりお祈り申し上げます。

公益社団法人二科会

## 上野の森美術館大賞展

## 大賞受賞

所属によらず広く開かれ  
た公募展、第33回上野の森  
美術館大賞展で、会友・高  
木陽さん(東京)が「赤い  
柵に囲まれた地球儀」(S  
100)で大賞を受賞、且つ  
2点入選の成果を挙げた。

また、中村絃子さん(東  
京)は、「公募日本の絵画  
2014」で「白昼夢」(F50)  
で大賞を受賞。「国際コンペ  
アートオリンピック2015」  
に入選を果たした。

## 第100回記念展

## 出品規約について

出品規約改訂が実施され  
ます。会員の出品作品の  
号数無制限条項が、壁長  
350cm以内に変更され、  
出品者の「未発表作品」の  
定義も明確になりました。  
作品保護のため3cm以内の  
仮縁を必ずつけて下さい。  
規約の熟読を宜しく願ひ  
します。

出品規約は二科展ドットコム



## 事務局だより

今年、大学入試セン  
ター試験、日本史Bの第6  
問3に二科会の名が試験問  
題に出ているのを、受験生  
とは違った思いで目にした  
年明けでした。一世紀にわ  
たる歴史の節目でもある、  
第100回記念二科展、そ  
して特別記念展として企画  
された「伝説の洋画家たち  
二科100年展」が、間も  
なく開催されます。

100年間の会員数はの  
べ553名。現役在籍会員  
が6月末日現在で221名  
ですから、特別展の作家約  
100名を加えると、今年  
の二つの展覧会で、二科展  
の舞台で活躍した会員数の  
約6割の会員作品が展示さ  
れることとなります。

15年前に開設した二科  
会の公式ホームページは年  
を増すごとに充実して参り  
ました。二科展ドットコム  
での二科展情報や巡回展便  
りはもとより、彫刻部は会  
員・会友作品、絵画部は会  
員作品だけが掲載されてお  
りました。記念展の今年  
からは、絵画部会友作品も  
プロフィールと共に、第92  
回二科展からの作品がすべ

て掲載されることになりま  
した。作家を個人別にワン  
タッチで閲覧出来るホーム  
ページギャラリーは、二科  
展がより身近に親しめるも  
のとなることでしょう。

会期中の二科ショップ  
ではNIKA100をデ  
ザインしたTシャツやクリ  
アファイル、エコバック等  
のグッズも販売されます。  
チャリティー作品や絵葉書  
と共に楽しみただけま  
したら嬉しく存じます。

二科100年史に掲載  
の「春季展・巡回展の沿革」  
の検証には支部長の先生方  
に多大なご協力をいただき  
ました。また、昔のお写真  
や書物、胸にNマークのつ  
いた紺色ブレザーに赤いネ  
クタイ、当時二科展前夜祭  
で着用した二科会の名が染  
め抜かれた法被、旧東京  
都美術館時代で話題になっ  
た、黒地に白文字で二科会  
と書かれた大きな傘や小物  
等々。往時の二科展を振り  
返るに相応しい品物や資料  
を提供して下さい、野村・  
田川・寺田会員のご協力に  
心より御礼申し上げます。  
有難うございました。

また、二科展をより身近  
にと被災地の仮設住宅を一  
軒一軒廻ってポスターを貼

り、広報活動をして下さっ  
た支部、五千枚のパンプ  
レットを北陸の地に配布す  
るなど協力をして下さい  
支部、労を惜しまず、額に  
汗して下さい先生方に改  
めて御礼申し上げます。

記念に刊行する書籍や二  
科年史、その他イベント等  
を特別会費なしに行えるの  
は、経費節減での数年間に  
亘る積立など、皆様のご理  
解や、ご協力の賜によるも  
の感謝申し上げます。

節目となる二科展が多く  
の来館者で賑わう会場とな  
り、心に残る二科展、記録  
に残る二科展、そして次に  
繋がる二科展のスタートと  
なることを祈念いたします。  
田中理事長が何時も仰  
る、「感謝」と「謙虚さ」を  
胸に、事務局も全力で頑張  
りたいと思っております。

事務局長 堀 珠世

## 編集後記

大正15(1926)年、  
日本初の恒常的な美術展  
会場として東京府美術館  
は建設されました。特徴  
的な列柱の並ぶ正面大階  
段、吹き抜けから見下ろす  
彫刻室。旧都美術館は戦後の  
二科展の賑やかな前夜祭風  
景、新奇をこらした宣伝活

動のもっとも効果的な舞台  
でした。半世紀を共にした  
旧都美術館は二科前夜祭の記  
憶をとどめて、1975年  
二科60回展の年、現在の都  
美術館に建て替えられまし  
た(1977年解体)。そ  
して2007年国立新美術  
館完成により92回展から  
六本木に会場を移し、本年  
100回展を迎えます。ま  
た、2014年の都美術館  
リニューアルオープンを機  
に、春季二科展が再び美術  
団体展発祥の地、上野の杜  
で開催されています。  
今号表紙は、春季展会場  
の東京都美術館と二科展の  
今・昔を並べました。(N)



カット 齋藤賢司

## 編集委員

|        |    |     |
|--------|----|-----|
| 委員長(総) | 野村 | みそら |
| 委員(総)  | 本間 | 千恵子 |
| 委員(総)  | 深見 | まさ子 |
| 委員(総)  | 金澤 | 英亮  |
| 委員(総)  | 幡  | 青果  |
| 委員(総)  | 宮澤 | 光造  |

平成二十七年七月十日発行  
公益社団法人 二科会  
〒100-0022  
東京都新宿区新宿4-3-15  
レフット新宿 501号室  
電話 03(3355)6646  
FAX 03(3355)4768